

第5回白石市総合教育会議 会議録

- 1 招集日時 平成31年3月11日（月）午前10時00分
- 2 招集場所 白石市役所 3階 第3会議室
- 3 出席委員 市長 山田裕一
教育委員 佐藤敏義 教育委員 佐藤よし美 教育委員 岡崎美弥子
- 4 欠席委員 教育長職務代理者 高橋 久
- 5 事務局出席者
教育委員会事務局
教育長 半沢 芳典
学校管理課 課長 小室英明 上席参事 宍戸儀四郎
課長補佐 相原宏一 課長補佐 日下好悦
主幹 菊地智佳
生涯学習課 課長 小室徹彦
総務部
総務部長 大槻洋一
総務課秘書係長 岡崎敏明
- 6 開会時刻 午前10時00分
- 7 協議事項 (1) 平成31年度「教育改革元年」の取り組みについて
①学力向上マネジメント支援事業について
②志教育支援事業（推進地区指定）について
③子どもの生きる力向上のための地域コミュニティと社会教育について
- 8 閉会時刻 午前11時30分

（午前10時00分開会）

小室課長 ただいまから第5回白石市総合教育会議を開催いたします。当会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4に規定されております、地方公共団体の長と教育委員会との協議並びに調整の場という位置づけとなっております。初めに山田市長よりごあいさつをお願いいたします。

山田市長 教育委員の皆様におかれましては、常日頃より学校教育そして生涯教育等、教育行政全般にわたりまして、様々な角度からご意見等をいただきまして当市の教育の推進に

力強いご支援をいただいておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。さて、本日は3月11日でございます。あの未曾有の東日本大震災から8年となりました。本県でも子ども達を含め尊い人命が多く失われてしまい、私自身も非常に辛い思いしております。子ども達の教育環境は非常に厳しい状況であると思っておりますが、これからの白石市そして日本を背負っていく子ども達のために何としても教育環境を整備していきたいという思いから、平成31年度を「教育改革元年」と位置づけをさせていただきました。先週閉会した2月議会では、平成31年度教育改革元年と位置づけした関連予算を含め、議会からは全会一致でご承認をいただきました。また、先週は市内の中学校で卒業式がありました。特に、南中学校、白川中学校においては、学校の歴史を閉じる最後の卒業式となりました。非常に辛く残念なことではありますが、未来を見据えて教育環境のより一層の充実を図っていくことが私達の役割、使命ではないかと考えております。今後とも教育委員の皆様におかれましては、ぜひ様々な角度からご意見を賜りたいと存じます。本日の総合教育会議、どうぞよろしくお願いいたします。

小室課長 それでは協議に入ります。なお、この会議につきましては、白石市総合教育会議運営要綱第3条の規定により市長が議長となり、進行をお願いしたいと考えております。市長、よろしくようお願いいたします。

山田市長 協議事項（1）平成31年度「教育改革元年」の取り組みといたしまして、①学力向上マネジメント支援事業について、半沢教育長から説明をお願いいたします。

半沢教育長 先ほど、市長からのあいさつの中にありましたように、平成31年度は「教育改革元年」ということで、予算措置を伴うこと、伴わないことも含めまして、様々な施策を展開していく予定でございますが、その中から主なものを3つご説明をし、ご協議いただきたいと思っております。まず、学力向上マネジメント支援事業につきまして、ご説明させていただきます。本県の小中学生の学力につきましては、大変大きな課題を持っていることはマスコミ等でも報道されており、本市ばかりでなく本県の喫緊の課題となっております。県教育委員会はこのような状況の中で、今までとはやり方を少し変えて県内の拠点都市で学力向上のしくみづくりを目指す新規事業を始めることになりました。県は、気仙沼市、大崎市、塩竈市、そして本市の4市に委託事業という形で学力向上に関する施策を行うと聞いております。平成31年度の当初予算では、時系列でいきますと、本市の予算措置が出す方が早かったのですが、事業の中で重複するものがありますが、調整を行い4月以降進めてまいりたいと考えております。事業の主な内容について申し上げたいと思っております。義務づけられている取り組みがあり、一つは小中学校の全学年を対象に標準学力調査を4月と12月の年2回行うこと、その結果を分析し学習内容の定着を確認すること、学習上の課題を検証して重点的に復習するなどして克服を目指すこと、小中連携の取り組みを導入することが義務づけられております。各市教育委員会は計画、実施、評価、改善のいわゆるPDCAサイクルをつ

くり学力向上を実現させるしくみを検討するというのがこの事業での大きな中身となっております。今回、県教育委員会は、学力向上マネジメント推進体制や基本方針の企画立案への助言を行う学力向上マネジメントアドバイザー（MA）を配置することになっております。県内でも好事例である大河原町等の取り組みの導入に係る支援であるとか、市教委等へのP D C Aサイクルの確立に向けた支援、市教委と連携して管理職を中心とした意識改革の推進を図るということを主な仕事としております。このMAは校長経験者らをもって充てることになっており、MAの派遣を受けた市は学力向上対策として成果のある取り組みを展開し、それを将来的に県内の他の自治体等に水平展開をしていくというのが県の構想であります。先ほど申し上げました義務づけられている取り組みの他に、委託を受ける市町村独自の研修会であるとか民間の各種教材の活用等を予算の範囲内でやっていくことになっております。市教育委員会が各学校で取り組むプランの部分から最後のチェック、アクションの部分に支援を行っていき、学力向上に結びつける内容になっております。事業期間は3年間との内定を受けており、3年間の総額で約1億1千万円の県予算となっております。今まで、こういった事業では、公開研究会を開催して広めていくということになっておりましたが、今回は公開研究会の開催は求めないという基本方針ですので、じっくりと子ども達と向き合いながら進めてまいりたいと思っております。以上が、県が新しく行います学力向上マネジメント支援事業の概要です。ご協議いただきたく存じます。

山田市長 本事業につきまして、皆様方からご質問、ご意見がございましたら、どうぞよろしくお願いたします。

佐藤(敏)委員 本市独自の埼玉県方式の学力調査と県事業の学力調査との調整について、教員の負担が増えることが懸念されますが、どのように考えているのかお聞きしたいと思いません。

半沢教育長 当市ではこの県の事業を受ける受けないにかかわらず、埼玉県と共同して小学4年から中学3年まで学力調査を行うことを、議会等でも説明をしてきたことであります。今回の予算措置の中で、4月の学力調査は、小学1年生は入学したばかりで実施が難しいことから、小学2、3年生について検討した結果、民間の学力調査を行うことにしました。1回目は4年生以上は埼玉方式、2、3年生は民間のテストを実施、12月は小学1年から中学3年まで民間テストを行います。本市の学力向上の大きな目玉は、一人ひとりをどう伸ばしていくかであり、子ども一人ひとりの伸びに着目するということは、この事業を受けるからということではなく、来年度も予算をお認めいただければ同じような形で埼玉方式で行っていきたいと考えています。埼玉県も本市と同じように12月にもう一度民間の学力調査を入れている学校が多いようです。この事業が加わったからテストばかり増えるというイメージは持っておりません。

山田市長 県が4市を指定し、そこに重点的に力を入れてモデル事業としたいというのはわかり

ました。本市は2学期制を採っていますが、他市は3学期制を採っているところがあります。総合的なカリキュラムの流れの中で3学期制と2学期制の比較、分析はされているのでしょうか。

半沢教育長 県内を知る限り、どちらがよいかという議論はされておられません。4月から3月の1年間を2つに分けるか、3つに分けるかの違いであると認識しています。本市は授業時数の確保を目的の一つとして2学期制を導入してきているわけですが、長い年月が経つ中で所期の目的が薄らいできている部分はあると感じています。当初の2学期制導入のメリットをもう一度現場と話し合っていきたいと考えています。一つ例を挙げれば、今年度の予定は前年度のうちに決めてしまうので変更することはできませんが、今年度の卒業式の日程について、早いところは3月15日、遅いところは3月20日です。ここに5日間の開きが出ています。それぞれの学校の事情があって日程を決めたのだと思いますが、6年生の授業日が実質3日間少ないので、来年度以降の検討課題だと思っております。現場の中で子どもと向き合う時間が十分に確保されているかどうかの一つの大きな課題だと認識しております。本市では不登校児童生徒の出現も課題の一つになっております。来年度につきましては、夏休みを3日、冬休み1日短縮するわけですが、私としては必ずしも授業時数を純増したいという思いからだけではありません。やはり、各学校の実態等にに応じて工夫しながら、子どもと向き合う時間に充ててもらえれば一番いいのではないかと思います。県南ではあまりやっておられません。白川小、大平小、大鷹沢小では午前5時間の取り組みを始めています。授業は教材があって指導者がいて子どもがいるというのが基本という考えております。教職員の出張は午後から始まることが多いので、自習時間の縮減のために有効だと思っております。3校からの報告でも、子ども達に、とまどいもなく非常にうまく行われており、放課後の時間を個別指導の時間にも充てていると聞いております。本市の2学期制のメリットを十分に活用し、様々な施策を組み合わせながら学力向上に結びつけていきたいと思っております。

山田市長 3校で行っている午前5時間授業にメリットがあるということでしたが、小学校と中学校では1時限の時間が違うので、小学校だからできることなんですよ。中学校で午前5時間は難しいですよ。

半沢教育長 中学校は1単位時間50分ですから、小学校45分ならぎりぎりできるという感じでしょうか。

山田市長 児童生徒と向き合う時間というのは、先生方にとっても子ども達にとっても重要なことであり、その一方で授業時数の確保は必ず必要なことだと思います。当然ですが、学校は授業だけではなく集団生活の場であり、様々な学校行事があるわけで、その学校行事を通してクラスがまとまっていくという体験などが非常に重要かと思っております。平成31年度は新天皇即位もあって十連休があります。本市独自として、夏休みを3

日、冬休みを1日短くするということではありますが、十連休のことを考えても、この日数で足りるのかと思うのですが、学校現場であるとか、教育委員のお考えはどのようなのでしょうか。

佐藤(敏)委員 前の教育委員会で、それぞれの学校で努力して時数を確保するために、1日の時間を伸ばすよりは休みを削った方が子ども達の心身の健康にとってよいのではないかという教育長のお考えを聞かせていただき、教育委員全員、了解して意見をまとめています。

半沢教育長 事務的なこととお話させていただくと、来年度、夏休み等を短くしなくても国が定めた標準時数に対して各学校の授業時数はプラスになっています。12月の時点では、2市7町で夏休み等を短縮するのは本市と大河原町と川崎町だけであり、他の6自治体は夏休み等の短縮は考えてないということでした。しかしながら、小学校でどう授業時数を確保するかというと、3年生以上は毎日6時間になり、授業が終わるのがほぼ3時頃となります。学校には研修や職員会議もありますので、個別指導も子ども達と話す時間もなく、急いで帰宅させるようになります。そうならないためにも、長期休業を減らすことをご理解いただきたいと思います。また、2020年度は3年生以上は標準時数が増えますので、来年度の実施状況や、現場の声も聞きながら適切に対応していきたいと考えております。

山田市長 主観ですが、3年生以上、毎日6時間授業というのは、子ども達にとって負担が大きいと感じます。私自身も子どもが4人おり、先生方とざっくばらんな話をする機会がありますが、小中学校にエアコンが導入されれば、中学校の何人かの先生からは、極端なことを言えば夏休みがなくてもいいのではないかという話をいただいたことがあります。夏休みも、特に運動部は、平日に関してほぼ毎日部活動をしている状況にあるので、例えば午前中を授業にして午後を部活動にすれば、教員の負担はかなり減るという意見でした。

佐藤(よ)委員 現場の先生方の声が反映されるようにできると良いと思います。先ほどの午前5時間授業についても、学校によっても違うとは思いますが、朝早くから学校を開けなければならなくなったとか、休み時間が短くなったとか、授業の組み方によって負担も変わってくると思うので、実施した経験を今後に生かせるようにアドバイスするなど、経験を積み重ねて良きものにしてほしいと思います。それと関連してですが、学力向上マネジメント支援に管理職を中心とした意識改革の推進というのがあります。管理職の方々の意識が、現在どのような意識でそれをどう変えていこうと考えているのかお聞きしたいと思います。現場、子どもの様子をよくわかっているのは担任だと思いますので、担任や子どもの実態、保護者、地域の実態にあわせた適切な進め方があると思います。今回は大河原の成果を参考にしたいと思います。白石なりのものがあると思いますので、管理職の方々の助言、支援、進める力がプラスに発揮されればあ

りがたいと思います。

半沢教育長 管理職の意識については、宮城県内の学校に、P D C Aサイクルがきちんと機能しているかとアンケートをとると、校長の97%がうまくいっていると答えているものの、10年以上低迷しているのも、県ではどこかに問題があるのではないかと考えているようです。例えば、算数、数学の力を伸ばすために何をやるかという、現場がよくいうのは、計算ができれば算数の力が上がると思っています。ところが今の算数・数学の問題は計算ができるだけでは解けない問題が多くなっています。国語は、毎日の漢字テストで漢字は書けるようになったとしても、読解力がつくわけではないので、この意識を変えていかなければならない。定例教育委員会で議論したところですが、私は子ども達の優れている部分、弱い部分など実態を把握し、適切なプランをつくるのが基本になると考えています。先ほど話がありました現場の先生方の声については、意外と教育委員さんは聞く機会がないかもしれません。これまで学校訪問を午前中に行い管理職の話聞き施設を見て、午後から定例会を持っていましたが、その順番を入れ替えて、午前中に定例会、午後には学校訪問にすれば、授業が終わった先生方の話を聞いてもらうことも可能かもしれません。また、私も複数の中学校の教員からは夏休みの日数をもっと減らしても構わないという意見を聞いています。そんなに簡単に変えることはできないかもしれませんが、エアコンが入るタイミングで長期休業の在り方を考える時期にきているのかもしれません。

山田市長 長期休暇に関しては、当然、小学校と中学校とは違う部分があると思うので、現場の声を率直にお聞きしたいと思います。当然、長期休業中は子ども達は休みですが、先生方は休みではなく学校で仕事をしています。長期休業中だからこそ事務的な仕事がまとめてできるということもあるのですが、子ども達と向き合う時間とか、質の高い授業とかを考えていくと小学校での6時間授業では、先生方の授業準備の時間を考えると今後の課題になると思います。エアコンを導入することでより柔軟な発想が出やすくなると思いますので、ぜひいろいろな声を聞けるようなしくみ、体制がとれればと思います。また、中学校では部活動の指導に関してもいろいろな事業が出てきたり、制度が変わったりしています。いろいろな見方がありますが、先生と生徒の人間関係を築くうえで部活動は重要ではないかという思いがあります。どのスポーツも勝負となれば勝ち負けはついてしまうので、勝ちを目指していくというのは重要だと思いますが、ただ、その勝利だけを目指すのではなく、チームワークとか互いに助け合ったり励まし合ったりという人間関係で子ども達の心を豊かにするという部分も非常に重要だと思います。

岡崎委員 先ほど現場の先生方の声という話がありました。私は小学生の子どもがいるので先生方と話をすることはある方だと思っています。管理職と現場の先生との間の認識の差のようなものがあるかもしれません。ざっくりと話をするといろいろな意見が聞かれますが、管理職に話しにくいこともあるかもしれないので、若い先生方の話

を聞く機会があればよいと思います。休み時間が短くなっているようで、子どもたちと向き合う時間は大分減ってきているように思います。見ていても先生方は忙しそうだと感じています。

山田市長 保護者の立場で考えると、夏休みでも学校で授業を受けているとか部活動をしていると安心するように思います。

佐藤(敏)委員 私は、2学期制導入のときに教育委員になったのですが、一番懸念されたのが、年3回あった通知表が2回に減ることでした。学力テストの結果を保護者へ送るということになりませんが、埼玉方式ですと4月の結果を7月に送って、その結果を夏休みの家庭学習に活かすという方法でやっているようですが、本市の場合は今年度からということで、先生方への説明とかはどのようにされるのでしょうか。

半沢教育長 1月下旬に埼玉県より指導主事をお呼びして各学校の先生方に内容や今後のスケジュールなどについての研修会を行いました。埼玉県の話ですと7月には結果が届くことになっており、夏休みの課題として各家庭で使えるのではないかと考えています。国の調査は早くても8月ですので、夏休みには間に合わない。新聞に出ていましたが、福島県全体と高知県の一部の自治体も埼玉県と共同実施を行うようです。一人ひとりの伸びがわかる学力検査は埼玉方式しかなく、現行の学力検査の中では最も優れていると思います。1年目では伸びはわかりませんが、2年目3年目以降に続けていければいいと考えています。夏休みの期間について、現在は学校管理規則で決めています。それを工夫し、教育委員会に報告したうえで、校長の判断で多少ゆとりが取れるようにできないかを考えています。本市の場合、小学校も中学校も規模がまったく違う状況になっているので、その学校の特色を活かせるような形で今後学校を運営できるように検討していきたいと考えています。

山田市長 全国学力学習調査の結果を見ましても、宮城県は仙台市を除くと47都道府県のうち47位に相当し、全国の中で下位に低迷している宮城県の中でも、さらに県内をみると県南は低い状況、その低い状況の中にあって残念ながら本市はさらに下位に沈んでいる状況を私自身も重く受けとめています。昨年の全国学力学習状況調査の結果を公表させていただいて、実は私も現場の複数の先生から、ここまで低いとは思っていませんでした。結果を公表してよかったという現場の先生もいらっちゃって、ここから何とか上に向かっていくためには学校も頑張らなくてはならないし、家庭にも気づいてほしいと現場の先生方はおっしゃってました。学力を上げるには学校だけでなく、しっかりと家庭学習ができる習慣を各家庭でつけることが欠かせないと思っています。平成31年度教育改革元年のひとつとしまして、これまでは復習確認テストを全額保護者が負担をしていましたが、市で一部補助をさせていただきます。市、教育委員会として復習確認テストの結果にも積極的に関わり、子どもの学力向上に向けて各家庭の協力もいただけるよう、よろしく願いいたします。

山田市長 次に「志教育支援事業」につきまして、説明をお願いいたします。

半沢教育長 県は志教育の推進をしており、当市でも1年間指定を受けることにしました。私は学力は単にテストで計れるものではなく、心の部分も極めて重要だと思いますが、本市の学力学習状況調査の結果をみても、夢を持つことや最後まで取り組むことが県の中でも低い結果が出ております。心は高いけれども学力は低いという例はあまりなく、各先進地等の結果をみると道德性が高く、学力が高く、不登校が低い傾向にあり、不登校の出現率が高くても学力が高いというのは日本全国どこを探してもありません。そのことから考えても、この事業を前向きにとらえて現場とも相談をして福岡中学校区で行うことにしました。福岡中、福岡小、深谷小、白石工業高校、角田支援学校白石校の5校で、福岡中を事務局として取り組んでまいります。取り組んだ成果等について、指定を受けない学校もそれを参考にしながら志教育に取り組んでいきたいと考えています。新しく事業を何か始めるというのではなく、これまで志教育として取り組んできたことをリメイクしたり、さらに充実させたりしながら、より子ども達の志教育に資するような支援事業にしていきたいと考えているところであります。

山田市長 平成30年度、志教育の一環として白川中で講演をさせていただきました。これは、いろいろな職場の方をお呼びしてお話をきくなど、お金をかけなくてもでき、非常に良いことだと思います。学校の先生以外の方の話を聞くというのは、子ども達にとって刺激になると思いますし、私自身もいい経験をさせていただきました。子ども達からの感想を見て、様々な考え方を持っていると思いましたし、将来に対していろいろ考えていると感想文から読みとることができました。心を豊かにして高い志を持ち、そのために頑張ろうと子ども達が勉強するというように全部つながってくると思います。皆さんはいかががお考えでしょうか。

佐藤(敏)委員 認知能力、非認知能力と分けると、A I次代に向かって非認知能力の向上が求められており、気持ちの問題が大きく関わってくると思われます。非認知的な働きかけになる事業が多くあるといいと思います。

岡崎委員 私は、2分の1成人式や卒業式、立志式などで、その都度自分の目標を明確にすることは大切だと思います。p4cなどはずっと取り組んでいて、これは効果があると思っています。今、取り組んでいることを今後も続けてほしいと思います。

佐藤(よ)委員 私も志シートを使って授業をしていましたが、子どもたちへの働きかけも大事だと思います。やらされているというよりは、積極的に取り組めるように、学力向上マネジメント支援事業もあったり、家庭的な問題を抱えていたり、そういう面での難しさもあると思いますが、志教育をぜひ進めてほしいと思います。

半沢教育長 今回、白石工業高校へ伺い、連携校の依頼をさせていただきましたが、非常に積極的で、高校の側もありがたいというお言葉をいただきました。福岡中学校区が中心となりますが、今まで以上にいろいろな取り組みを通して、小中学生と高校生の交流を充実させていきたいと思います。福岡中は今まで以上に立志式を充実させることで、子どもたち一人ひとりの志、夢という部分を明確にできるよう働きかけていきます。新しく何かをやらなければとか、成果を出さなければならないという事業ではないので、現場の創意工夫を中心に小中高の連携を図りながら実施したいと思います。学ぶ主体の子どもからすると就学前から連続しているので、地域にある北保育園、深谷保育園とも連携しながら進めていければいいと思っております。

山田市長 話がそれで恐縮ですが、昨年、白石市議会主催で中学生議会を開催していただいて、議員がそれぞれ中学校を回って、いろいろ説明したり、授業で話をしたという議員もいたと聞いたのですが、その感想を議員さんにお聞きしたら、生徒の皆さんも非常に関心を持って聞いていたと聞き、非常によかったですと感じました。それぞれの学校の学年PTA等で、お金をかけずに私や議員等話をすることは可能です。中学生にとっては参考になると思うので、各学校に話を持ちかけてもらってもいいのかなと思います。小中高で連携していくのは子どもたちにとっていい刺激になると思いますので、非常に楽しみにしたいと思います。

山田市長 続きまして、子どもの生きる力向上のための地域コミュニティと社会教育について、説明をお願いいたします。

半沢教育長 現在、社会教育委員8名の方にご委嘱申し上げておりまして、平成30、31年度の2年間の諮問事項としまして、「子どもの生きる力向上のための地域コミュニティと社会教育」というテーマで会議を行っていただいております。このテーマを選んだ理由は、子どもたちに学習したことを社会の中で活用するという意識させながら、近年取り上げられている非認知能力を向上させる機会を子どもが生活する地域コミュニティの中で提供し、家庭教育、学校教育と連携させていくということが社会教育の役割として大きいものであると考えたからでございます。会議の中では、子どもの生きる力とは何か、地域コミュニティとは何か、非認知能力とは何かを含め、協議を進めております。めざす子ども像、必要課題をいくつかのテーマにまとめ、テーマごとに協議を進めていただいているところでございます。文科省が毎年行っております、学力学習状況調査において、本市の子どもの特徴としまして、地域活動に参加する子どもの割合が低い、読書をする子どもが少ない、1冊も読まない子どもが多いなどが、社会教育の分野では気になるところでございます。すべてご協議いただくのは難しいので、地域活動の中に子どもを取り込めないかをご協議いただいております。議会でも答弁させていただきましたが、本市では安全教育担当主幹が2名配置（白石第一小、東中）されております。学校の仕事だけでなく市全体の子どもの安全にかかわることをする役割があります。この教員と連携をとりながら市の防災訓練にも

子どもが参加できないかと考えています。地域に聞いてみると、どの地区でも参加が少ないようです。子どもは学校にいるときだけでなく、登下校のときや近くに大人がいないときにどう避難するかは、自分の命を守るために必要なことと考えています。地域の中でもっとも守られるべきは高齢者、子どもだろうと考えます。防災訓練の時には子どもたちが参加できるような仕組みをつくり、自分で自分の命を守れるような力を育てなければと考えています。学校から地域の中に出て行かなければと感じています。

岡崎委員 P T Aなどで子ども会活動についての報告があるのですが、子どもが減って子ども会自体の活動がうまくできなくなっているところが多くなってきています。市主催の活動でも、先日のオリンピックデーなど参加者が少なかったので、案内はしていると思うのですが、学校からも呼びかけてもらうとか連携を図れるといいと思います。

佐藤(よ)委員 越河地区も子どもが減り、お年寄りが増えてきて婦人防火クラブに参加ができないとかが出てきています。人が少ないからこそ、なおさらみんなで協力し合わないといけないと思います。共助という言葉がありますが、そういう社会になっていかなければならないと感じます。

山田市長 昨年、斎川小が閉校となりましたが、今まで地区民体育大会と小学校の運動会を合同で行っていましたが、今年度、地区の体育大会に地域の子どもたちが参加していると聞きました。「地域力」によって子どもは大きく育つということがあると思います。自分の親だけでなく地域の方からほめられたり、時には叱られたりといったことを経験しながら育っていくことが重要だと思っています。例えば、大鷹沢地区では大鷹沢子ども太鼓、団七踊りを6年生から4年生へ継承するとか、深谷地区では子ども神楽など地域の伝統文化を残そうとしている方々がいらっしゃいます。地域の子どもが入っていくことで地域の大人も地域の子どもにより声がかかりやすくなり、地域のつながりが深まり子どもの心が豊かに育つのではないかと思います。

半沢教育長 白川中学校の孫の手、巣箱作りなどの伝統的行事を、統合先の学校が全部抱えることは不可能ですから、地域の中で子どもたちをどう取り込んでいくのか、地域の側も考えなくてはならないと思います。斎川地区の文化祭では、公民館が学校と連絡を取り合って斎川地区の子どもたちの作品を展示してありました。相互に連絡を取り合い、うまくやっていくのがよいのではないかと思います。

佐藤(敏)委員 大人も子どもと一緒にやっていくという意識がないとなくなってしまうと思います。地域では、子どもが少なくなっているという危機感がありますので、大人のリーダーが集まって子どもを入れた事業展開を考えていく必要があります。私の地区の防災訓練では、小中学生も参加しています。防災訓練のあとにイベントを合わせてやっていきますので、そういったしかけも必要かもしれません。

山田市長 防災訓練に子どもたちを巻き込むのは良いアイデアだし重要だと思います。

半沢教育長 私は8年前、石巻市の学校にいました。避難所に避難してくる人は高齢者が多く、働く世代は職場でそれぞれ働いていました。避難所の中で、いろいろなお世話をしていたのは中高生が主体でした。トイレの水を流すのに、プールの水を運んだのは6年生でした。子どもは弱者ではありますが、企画の段階から入れると、いろいろなアイデアを出します。子どもは子どもで忙しいものの、何回かは出てこれると思います。白川地区のお祭りでは、中学生が司会をしていました。地域の中に子どもを入れると、学校と家庭の往復だけではわからない地域のことがわかるようになると思います。

山田市長 先ほど話が出ました読書について、白石の子どもたちに読書の習慣をつけさせたいものだと思います。親が読まなければ子どもも読まないと思います。小さい頃からの絵本の読み聞かせなどの延長かとも思うのですが、昨年8月にこじゅろうキッズランドがオープンしまして、日本で一番古い、三重県四日市市にある書店に絵本の監修をお願いし、今子ども達に読ませたい絵本だけを揃えました。聞きましたら、お母さん方が夢中になって読んでいて、その様子を見て子どももお母さんの膝の上で読んでいるそうです。親が読んでいる姿を見ることが子ども達にも影響を及ぼすのではないかと思います。

佐藤(敏)委員 本を読まないという話がありましたが、親も本を読むきっかけ、動機付けがうまくいけば、本を読むようになると思います。

岡崎委員 図書館について、アテネも併設しているのですが、1階がケアハウス、2階が図書館の子どもの本コーナーになっているのですが、その前の階段が閉鎖されており、入りにくい印象があります。ケアハウスの位置を2階にするとか、工夫する必要があるように思います。

山田市長 施設を利用しやすくするなどという工夫は大事ですね。今、学校では「朝読書」等の実施状況はどうなっているのでしょうか。

半沢教育長 学校によって頻度は違いますが、すべての学校で取り組んでいます。小学校を中心に、校長先生や〇〇先生お薦めの本として本の紹介している学校があって、興味を持ってもらえるようにしている学校があります。

佐藤(よ)委員 以前に勤めていた学校では、図書館の本を借りてコーナーをつくっておくと、子ども達は喜んで読んでいるので、本自体が嫌いではないようです。朝会でお薦めの本を紹介したり、読んで聞かせると食い入るように見ていました。環境もあるかとは思いますが、できる限り本に親しんでほしいと思っています。図書館については、児童書

だけアテネに離れていると利用が難しいように感じます。

山田市長 その他として、本日の協議事項以外にご発言がありましたら、お願いいたします。

山田市長 冒頭申し上げましたように、平成31年度は「教育改革元年」として位置づけました。何としても基礎学力は向上しなければならないと思っております。あわせて、本市はp4cも導入しておりますので、子ども達により深く考えることを身につけさせたいと思います。友達との違いという部分で、SNS等で見えない暴力が話題にもなっていますので、人間同士のかかわり合い、けんかして、仲直りの仕方を学んだり、みんなで協力してクラスがひとつになっていくとか、みんなで行事を作り上げていくという経験が重要だと思っております。特に、今月で白川中と南中が閉校を迎えます。それぞれの学校や地域の歴史にとって、大きな転換の年になると思っております。本市の教育をみても、人口の減少というのは大きな課題になると思っております。最近の出生数をみますと、年間200人前後という状況です。議会の一般質問で答弁させていただいておりますが、年間200人という出生数は、これからの学校教育という部分で、それぞれの学校にとっても、白石市全体においても大きな課題になってくると思っております。平成31年度から第6次総合計画の着手に入ります。これまでの総合計画とは全く違った計画になると思っております。本市の人口は社会減が約150人、自然減が約350人、年間約500人減っています。後9年もすれば3万人も切ってしまうというのが目の前の課題です。これは我が国の課題であり、地方の課題であって、当然、白石市の課題であります。そういう中で教育を第6次総合計画の大きな柱にしたいと考えています。子どもの数は少なくとも、子ども達は大切な宝物ですし、未来に対する大きな投資だと考えています。これからの子ども達の教育環境をどう整備するか、また、どのような学校が子ども達にとってより良い学校なのか、私自身もこれからも考え模索していきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。では事務局に進行をお返ししたいと思います。

小室課長 閉会のあいさつを半沢教育長をお願いしたいと思います。

半沢教育長 本日は、市長、教育委員の皆様にご活発な、そして率直な意見交換をさせていただき、本総合教育会議の目的は達成されたと考えております。本日いただきました様々のご意見、市長の思い等を十分に踏まえながら、これからも創意工夫しながら、本市の子ども達のために汗を流していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

小室課長 以上をもちまして、第5回白石市総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。

(11:30閉会)